

(別紙 10)

岩手県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る計画/評価報告
(出没防止対策事業)

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

本県では、山林、特に山菜・きのこ採り等での高齢者による人身事故が多いこと、また、近年死亡事故も発生していることから、人身被害を防止するための具体的な対策や、クマに遭遇した際の対処方法等を県民（特に高齢者）に広く普及啓発する必要がある。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和 7 年 1 月～3 月
場所	県内全域
目的・目標	ツキノワグマによる人身被害防止対策や人里への出没防止対策について、県民向けに周知する
内容	①CM制作 人身被害の多い高齢者がテレビを見る時間帯を中心に CM を放送 ②ポスター、リーフレット等作成 クマ出没への注意喚起やクマと遭遇した際の対処方法を周知するポスターやリーフレットを作成
方法	委託により実施
評価方法	県内の人身被害件数により評価する
事業費とその算出方法	5,059,000 円
備考	

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注 2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

①CM 制作

クマの冬眠明けの令和 7 年 3 月に民放 4 社で計 120 回 CM を放送した。

②ポスター、リーフレット等の作成

ポスター（600 枚）、チラシ（12,000 枚）リーフレット（2,000 枚）を作成し、県振興局、市町村、道の駅等に配布した。

人身被害件数は、令和 6 年度は 10 件 10 名、令和 7 年度は 9 月 1 日時点で 13 件 14 名となり、令和 7 年度は人身被害が増加傾向である。令和 6 年度は過去 5 年間で最も人身被害が少ない年度であったことから、昨年度の単純な比較は困難である。

今後は、作成した CM やチラシ・リーフレットを活用しながら注意喚起を継続し、中長期的に人身被害防止への効果を検証する必要がある。

注 1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注 2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注 3：注 1 による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

注 1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。